

# ブリヂストン

久留米大学留学生別科

A クラス 215BA01

陳彬

## 1. はじめに

タイヤは自動車の重要な部品である。現在、世界市場におけるタイヤメーカーは多くある。今、非常に幸運なことに世界で一番大きなタイヤメーカーの創業地に留学しており、貴重な機会だと思う。なぜ、私はブリヂストンをこのレポートのテーマに選ぶのか。それは小さい時から、ずっと自動車に深く興味を持っているからである。特に F1 は、私の一番好きなスポーツである。F1 レーシング自体の技術を除けば、試合の成否は、タイヤの品質で決定される。

1996 年の 2 月にブリヂストンは F1 への参戦を正式発表した。その時、スポーツ界や自動車雑誌などは当然だが、世界の中で反応が大きかった。ブリヂストンは F1 への参戦が単なるモータースポーツの最高峰ではなく、大きな企業活動であり、しかも世界的ニュースであることを再認識した。現在の F1 において、ブリヂストンはさらに重要な役割を演じている。このレポートでブリヂストンの沿革と現状及び未来への展望について述べたいと思う。

## 2. 背景

株式会社ブリヂストンは、日本に本社を置く世界最大手のタイヤメーカーである。今、フランスのミシュラン、アメリカのグッドイヤーとブリヂストンで「世界の三大タイヤ企業」と呼ばれている。株式会社ブリヂストンのサイトによると、1931 年、アサヒコーポレーションから日本タイヤ株式会社が独立し、福岡県久留米市に「ブリヂストンタイヤ株式会社」が設立された。設立から、85 年を経て、世界における一番大きなタイヤメーカーに成長した。タイヤの製造はブリヂストンの主な事業内容である。乗用車、トラック、バス、建設、産業・農業車、航空機、バイクなどの様々なタイヤを製造している。航空機用のタイヤは、現在全てのタイヤメーカーの中で、唯一ブリヂストンが製造できる。

ブリヂストンの沿革において、一番注目されるのは F1 の参戦であった。しかし、F1 の発展とクルマの普及に伴って、現在、環境保護、環境悪化を抑制する声もますます高くなってきた。ブリヂストンの事業環境は、経済発展、環境保護、技術革新、グローバル化といったあらゆる面で大転換期を迎えている。このような状況の下で、ブリヂストンは、その事業が世界に与える影響の大きさを認識し、さらに環境保護を自社の責任としている。現在のブリヂストンは、企業利益を追求することと環境保護の間でバランスを探し続けている。このような現状を踏まえて、私は三つのポイント①企業の利益、

②利益と環境保護のバランスの取り方、③ブリヂストンの未来への展望について調査したいと思う。

### 3. 調査内容

2015年12月にブリヂストン久留米工場の職員の方に、メールで質問をした。調査内容は以下の通りである。

質問1：ますます多様化するクルマの需要に対し、ブリヂストンはどのような方法で消費者の需要を満たしますか。

答え：現在、グローバル化に伴って、各国のニーズやグローバル化に対応し、5カ国6拠点48工場を持って、様々なタイヤを製造・販売しています。また、環境を意識したタイヤや各自動車メーカーの要望に対応するタイヤを生産しています。

質問2：ブリヂストンは環境保護にも熱心に取り組んでいると思います。ブリヂストンの省エネ・排出削減についての最新の成果を教えてください。

答え：排出削減について廃棄物、排出ガス、排水三つの部分に分かれています。

- 1) 産業廃棄物について、埋め立てでの処理を一切せず、リサイクルや売却を実施します。
- 2) 排出ガスについて、「コ・ジェネレーションシステム」を採用し、約四分の一の二酸化炭素削減ができます。
- 3) 工場排水について、社内で厳しい管理制度があり、定期的な測定管理を実施しています。

また、省エネについて、環境にやさしい理念を持って、新工場を建てました。

- 1) 製造過程で発生する熱を空調に利用し、エネルギー節減をしています。
- 2) 太陽光発電システムによる電力とLED照明でエネルギー削減をしています。

質問3：ブリヂストンは2016年に会社設立85周年を迎えます。2016年に向け、ブリヂストンにはどのような新しい目標やビジョン、イメージがありますか。

答え：1) 様々な活動をしていく中で、「オリンピック公式パートナー」として2024年までオリンピック活動をサポートします。  
2) 技術・原材料・天然ゴムの開発を続けます。

#### 4. おわりに

2016年1月12日に久留米大学留学生別科の学外研修で、ブリヂストン久留米工場を見学した。自らの体験を経て、私はいろいろな感想がある。ブリヂストンは今世界一のタイヤメーカーで、ブリヂストンの品質は非常に良いが、価格が高いため、消費者は購入するとき、他のタイヤメーカーの商品と比べ、迷ってしまう。ブリヂストンは生産コストを下げるべきではないだろうか。もし、さらに価格を下げる事ができれば、ブリヂストンの商品はさらに売れると思う。

ブリヂストンは世界を代表するタイヤメーカーの中で群を抜いている。ブリヂストン工場の中で、技術革新によって、ロボットを使用することが普及している。環境保護について、著しい成績を収めている。今、循環利用は工場全体で行っている。それに、労働者の仕事に対する意欲は高品質商品を生産する不可欠な一部になっている。また、ブリヂストンの歴史を振り返ると、成功への道はいつも困難に満ちている。ブリヂストンが今日の成功を達成できたのは、恐らく失敗を恐れぬ探求精神によるものである。それに80年も日々努力し続けてきたことは、今後きっと、ますます多くの世界中の若い人の励みになると思う。

#### 参考文献

ブリヂストンホームページ <http://www.bridgestone.co.jp/> (2016年1月6日参照)



写真1



写真2

ブリヂストン久留米工場にて (2016年1月12日筆者撮影)